

十勝、早春、馬追



表紙：雪煙を上げて疾走する妊娠馬。体重1トンを超える馬も。

目次：馬追いを指揮する馬係長の久保喜広さん。久保さんは、子馬が無事に生まれ次の代の親になり、農家に喜んで使ってもらえるようになるのを楽しみに、見守り育てている。

裏表紙：音更町の「美林」に指定されている場内の白樺並木。冴えわたる十勝晴れの空に向かって繊細な枝を伸ばす。

いい運動



十勝牧場は、明治43（1910）年、内閣馬政局管轄の「種馬牧場」として、原種馬の改良と繁殖のため創設されました。現在はそれに加えて、肉用牛、乳用牛、めん羊の改良業務が行われており、畜産新技術の開発、農家への指導も行っています。

夏の間、広々とした放牧地で過ごしていた馬も、冬期間は厩舎で飼育されるため運動不足になりがちです。体力維持のため、特に妊娠馬は健康な子馬を産むために、毎年1月～2月末にかけて馬追い運動が行われます。

1周800mの走路を3周、30分程度、速歩で運動。青毛(黒)、芦毛(灰色。成長するにしたがって白っぽくなるという)や栗毛(褐色)など、にぎやかだ。迫力満点に地響きを立てて通り過ぎていく。